

にぎわい通信

～ 令和6年度の主な出来事まとめ(日本海にぎわい関連) ～

◆ みなとオアシスの集いin 境港

令和6年11月8日、鳥取県境港市において、「みなとオアシスの集いin 境港」が開催され、総勢182名のみなとオアシス関係者が出席しました。みなとオアシス全国協議会の長澤会長からは、「開催にあたり関係者の皆様のご協力に感謝。境港の美味しい海産物を堪能してください。」との挨拶がありました。総会後に行われた「みなとまちづくり研究会」では、さかいみなと中野港漁村市の濱野氏からカニ料理開発や教育を行う「境港ベニガニ有志の会」を通じて得た知見についての講演。NPO 法人未来守ネットワークの奥森氏からは中海で20年間取り組まれたアマモの再生事業について講演がありました。



(みなとまちづくり研究会の様子)

◆ 第15回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in 境港

令和6年11月9日・10日、境港市竹内団地の境夢みなとターミナル周辺で「Sea級グルメ全国大会in 境港」が開催されました。2日間で目標を上回る延べ5.6万人に来場があり、全国32のみなとオアシスが出品した「Sea級グルメ」を堪能しました。



(会場の様子)

出品されたSea級グルメは来場者による投票の結果、みなとオアシスもんべつ（北海道紋別市）の「ホタテステーキ」が2年連続のグランプリに輝き、2位はみなとオアシス浜田（島根県浜田市）の「浜田アンコウとノドグロ旨み焼売」、3位はみなとオアシス八幡浜みなと（愛媛県八幡浜市）の「じゃこカツ」となりました。



今大会は海の環境保護を大きなテーマとしており、リサイクル可能なプラスチックを食器の使用やマイ箸の利用促進を呼びかけた結果、約1,800kg 排出されたゴミのうち、50%以上をリサイクルすることができました。また、会場内の能登地震の復興応援ブースでは、能登半島に所在する「みなとオアシス」の物品販売と募金を行い、2日間で集まった、合計174,000円は物品販売に協力いただいた3つの「みなとオアシス」が所在する市町に寄付されました。

閉会式では、来場者による投票結果が発表されたほか、伊達境港市長から、次回開催地である青森県青森市の代表に全国大会ののぼりが引き継がれました。次回の第16回大会は令和7年9月27日・28日に開催予定となっています。



(伊達境港市長(中央左)から青森市代表者(中央右)へ
全国大会ののぼりが引き継がれました)

◆ みなとオアシス#湧くで温泉津登録証交付式

令和6年8月10日、島根県大田市温泉津にて「みなとオアシス#（ハッシュタグ）湧くで温泉津（ゆのつ）」の登録証



（稲田港湾局長（右）から楯野大田市長（左）（設置者）へ登録証の交付）

交付式が、同日の「第50回ゆのつ温泉夏祭り」に併せて行われました。当日は多くの地元一般客の前で、国土交通省稲田

港湾局長から楯野大田市長へ登録証が交付され、中国地方整備局箕作副局長からは、みなとオアシス#湧くで温泉津運営協議会の小川副会長へみなとオアシスののぼりが手渡されました。



（花火打ち上げカウントダウン）

交付式終了後にはステージ上に子供たちを集め写真撮影と、会場のお客さんと共にカウントダウンで尺玉の花火を打ち上げ、交付式に花を添えました。「みなとオアシス#湧くで温泉津」の登録は全国164箇所目、中国地方整備局管内では30箇所目となります。

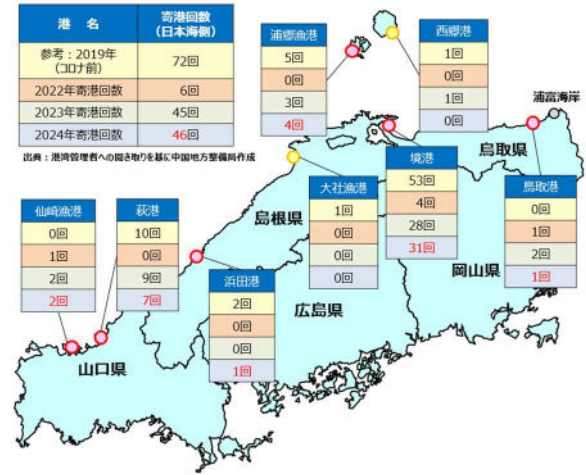


（地元の子供たちと記念撮影）

◆ クルーズ船寄港情報（島根県・鳥取県・山口県）

2024年の中国地方整備局管内におけるクルーズ船寄港回数は306回（速報値）となっており、広島港や宇野港などがある瀬戸内海側の寄港が特に多いです

が、日本海側のクルーズ寄港についても着々と寄港回数を伸ばしており、島根県・鳥取県・山口県（日本海側）の2024年の寄港回数は46回と、コロナ前の約6割まで回復しています。



クルーズ船の初寄港については、計5回あり、境港にアザマラ・ジャーニー（アザマラクルーズ社）、ハンセアティック・スピリット（ハバグロイド・クルーズ社）、ノールダム（ホーランドアメリカライン社）。仙崎港にシーボーン・ソジャーン（シーボーンクルーズライン社）。萩港にル・ジャック・カルティエ（ポナン社）がありました。



（境港に「ハンセアティック・スピリット」初寄港（R6.6.13））

今後のクルーズ船情報として、島根県出雲沖にル・ソリアル（ポナン社）が初寄港し、乗客は本船に備え付けられているボートで大社漁港に入港・上陸する予定です。出雲大社や稲佐の浜などが代表的な観光地として挙げられます。



（出雲沖に寄港予定の「ル・ソリアル」（R7.5.31予定））